

多賀城ガイド研修会(2015. 7.15)

奈良・平安時代、陸奥国府・鎮守府として多賀城が築かれ 724 年～10 世紀は東北地方統治の中心地であった。多賀城には、奈良の都にならった政庁と付属の寺院が置かれ、九州太宰府とともに、「遠の朝廷」と呼ばれ、陸奥出羽按察使として、大伴家持、源融(光源氏のモデルの一人)らの都人が赴任してきた。また、この地には「壺の碑」をはじめ多くの歌枕があり、西行、芭蕉等の有名な歌・俳人がこの地を訪ねて来た。仙台・松島と共に、多賀城、塩竈を含め、歴史・文化・風光に恵まれたこの地を外国人にも紹介したいところです。



東北歴史博物館で全員の記念写真



多賀城廃寺三重塔跡で、礎石が往時の寺の規模が分かる



多賀城高級官吏が住んでいた館前遺跡



多賀城の創建・修造が記された壺の碑について学ぶ



多賀城政庁は反乱、天災毎に改築され、模型はⅡ期時代



儀式に使われた正殿の礎石に建つと 1300 年前に繋がる